

2024年度 第1四半期 決算説明会資料

長瀬産業株式会社（証券コード:8012）
2024年8月8日

これからも、
じぶんらしく。
じぶんらしくなく。

再掲:資本コストや株価を意識した経営 —2023年度期末 決算説明会資料より—

企業価値向上に向けた方針

中期経営計画 ACE 2.0で掲げる成長戦略、財務・資本戦略の遂行

現状の課題認識

- 2007年度以降**PBRは1倍割れ**の状態
- 株主資本コストは投資家との対話から**8.0%以上**
- 純資産に対する政策保有株式の割合が約15%

取組み事項

収益性・効率性

- ・ ROIC経営の浸透:売上総利益率および資本回転率の向上
- ・ 改善領域における不採算事業・不採算取引を削減
- ・ 政策保有株式の段階的な削減

資本コスト

- ・ 株主還元拡充:2年間限定で総還元性向100%
- ・ 成長投資における負債の活用

IR活動

- ・ 積極的な情報開示、投資家との対話を拡充

目次

■ 連結損益計算書	P3
■ 所在地別 売上総利益	P4
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P5
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P6
■ 売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移	P7
■ セグメント概況	P8～P15
■ 主要製造子会社概況	P16
■ 連結貸借対照表	P17
■ 連結キャッシュ・フロー計算書	P18
■ 2024年度 通期業績見通し(変更無し)	P19～P20
■ 株主還元状況	P21
■ お知らせ:名古屋支店移転	P22

<参考情報>

- ✓売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移ーその他・全社配賦前一
- ✓再掲:各セグメントの事業環境ー2023年度期末 決算説明会資料よりー

連結損益計算書

- ▶ 第1四半期としての売上総利益は過去最高となり、全事業セグメントにおいて売上総利益率が向上
- ▶ 物流コスト上昇を受けた販売費や人件費等の一般管理費が増加したが、営業利益は増益となり、営業利益率も向上
- ▶ Prinovaグループの製造業は厳しい状況だったが、連結全体としては通期見通しに対して順調に進捗

	2023年度 第1四半期	2024年度 第1四半期	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
売上高	2,240	2,392	151	107%	9,400	25%
売上総利益	387	457	70	118%	1,800	25%
<利益率>	17.3%	19.1%	1.9ppt	—	19.1%	—
販売費及び 一般管理費	317	350	33	110%	1,435	—
営業利益	69	107	37	154%	365	29%
<利益率>	3.1%	4.5%	1.4ppt	—	3.9%	—
経常利益	73	109	36	149%	352	31%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	43	74	30	170%	280	26%
US\$レート (期中平均)	@ 137.5	@ 155.9	@ 18.4 円安		@ 148.0	
RMBレート (期中平均)	@ 19.6	@ 21.5	@ 1.9 円安		@ 20.0	

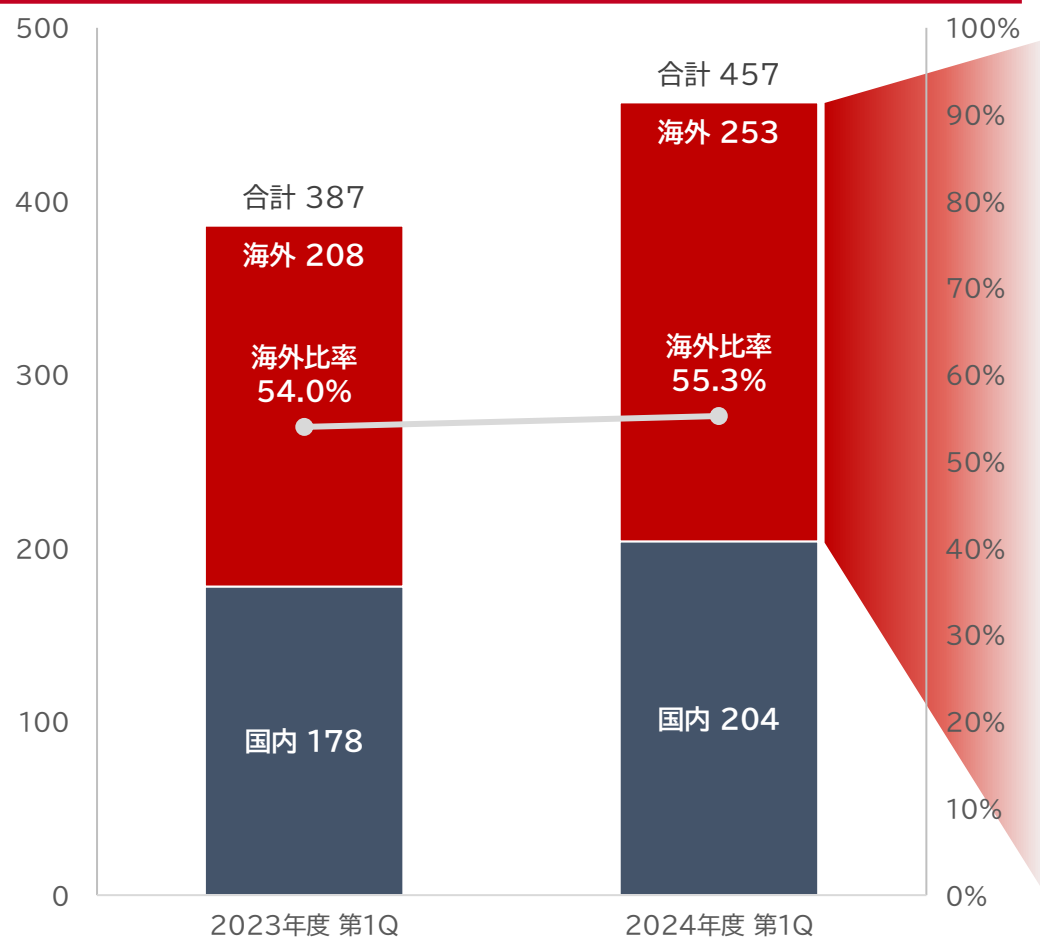
※ 収益認識基準 代理人取引による売上高および売上原価の相殺額 2023年度 第1Q -635億円 2024年度 第1Q -668億円

※ 為替の影響 【売上総利益】+26億円 【営業利益】+6億円

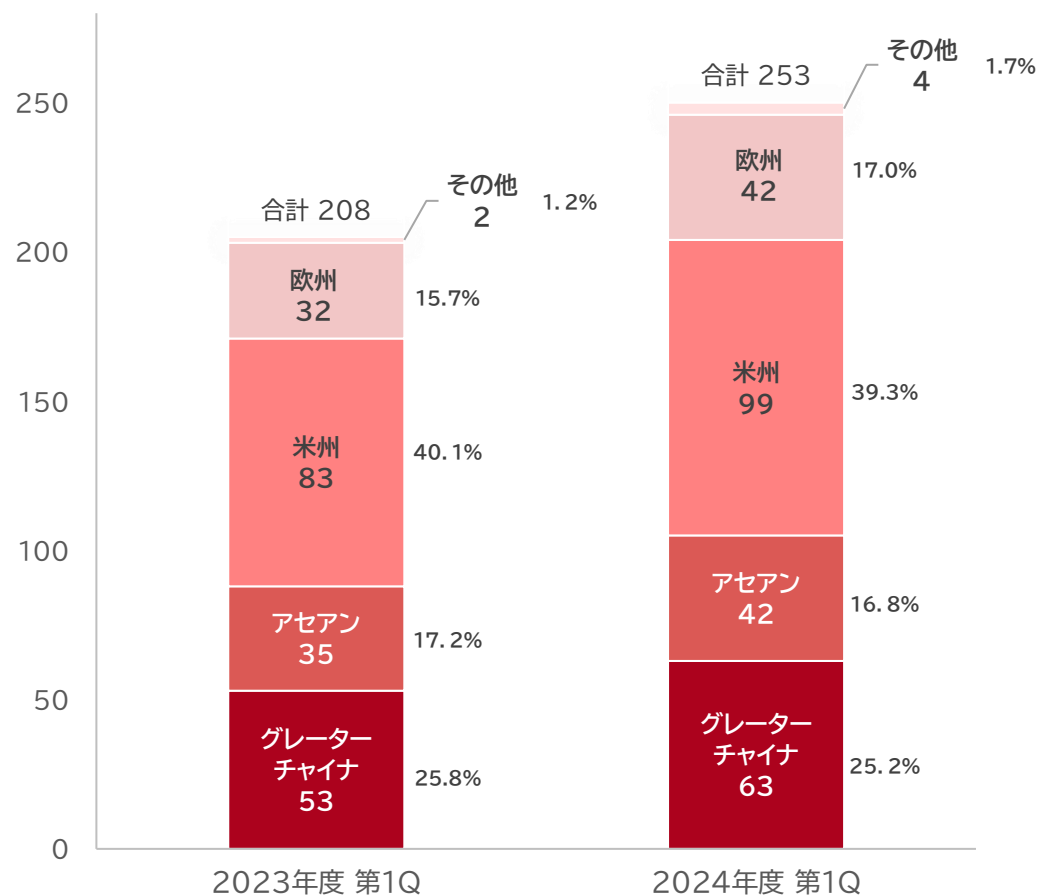
所在地別 売上総利益

- ▶ 国内外ともに増益
- ▶ 国内は主に半導体用途向けの変性エポキシ樹脂関連や原材料の販売増加等により増益
- ▶ 海外は円安による影響に加えて、食品素材販売や樹脂販売の収益性が改善したこと等により増益

国内・海外売上総利益（億円）



海外売上総利益の地域別内訳（億円）

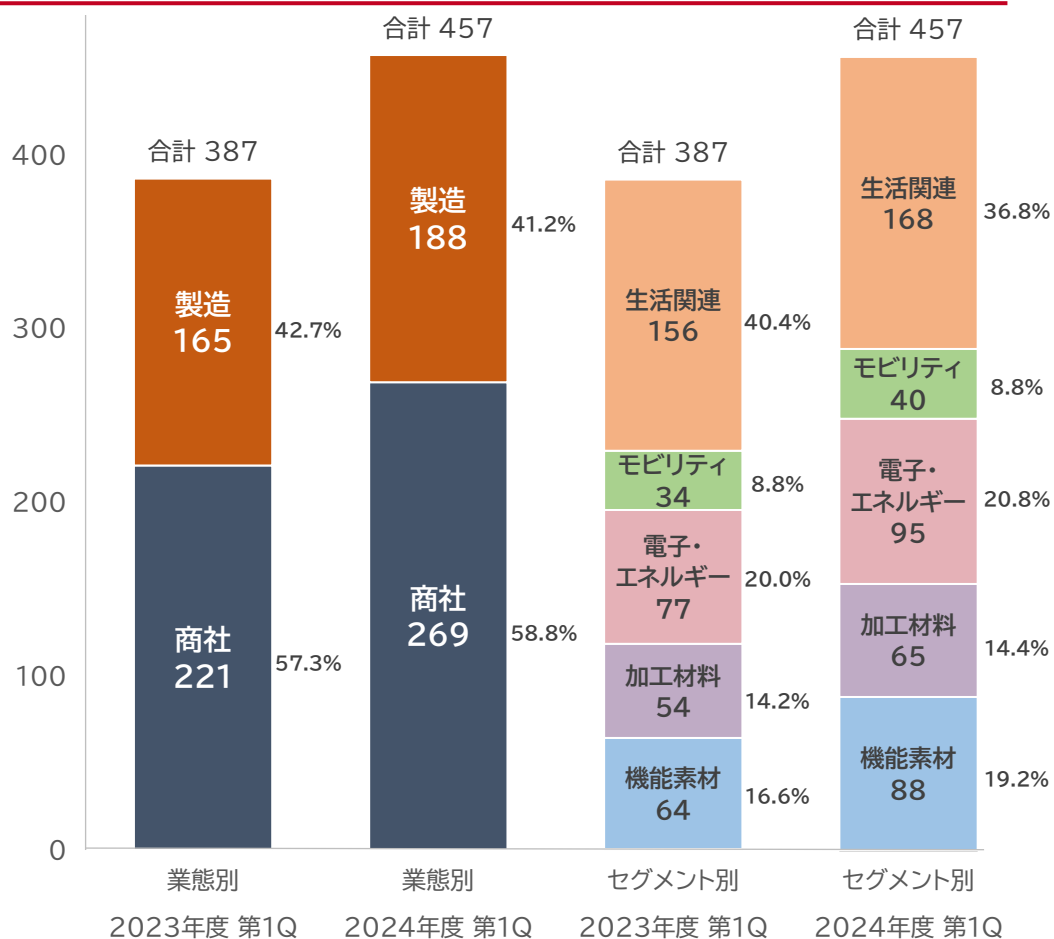


※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含む

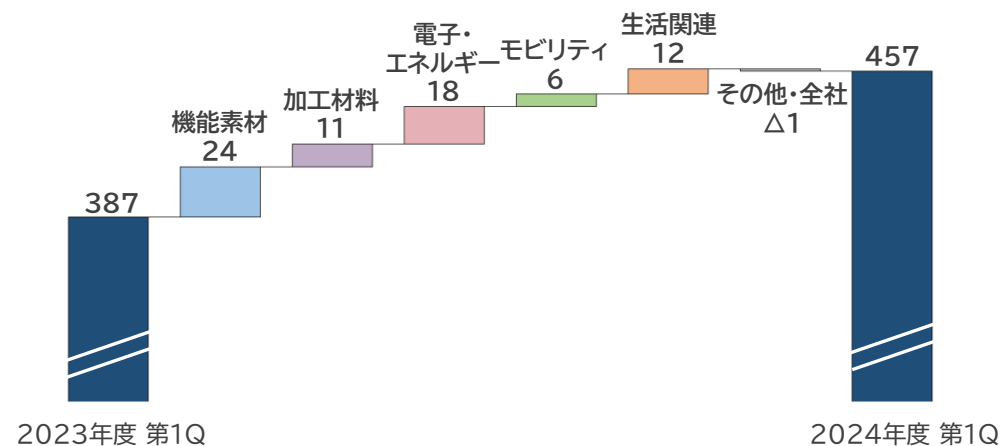
業態・セグメント別売上総利益 2期比較

- ▶ 機能素材は塗料原料や半導体関連等の電子業界向け原料の販売増加に加え、情報印刷関連材料の製造業であるカラーフォーマー事業における損失削減により、増益
- ▶ 加工材料はOA等の電機・電子業界等向け樹脂販売の世界的な需要の持直しに加え、足元で市況が底入れ基調であることを受け、増益
- ▶ 電子・エネルギーは半導体業界向けの材料販売や変性エポキシ樹脂関連の半導体・モバイル機器向けの販売増加により、増益
- ▶ 生活関連は主にPrinovaグループの食品素材販売の好調により、増益

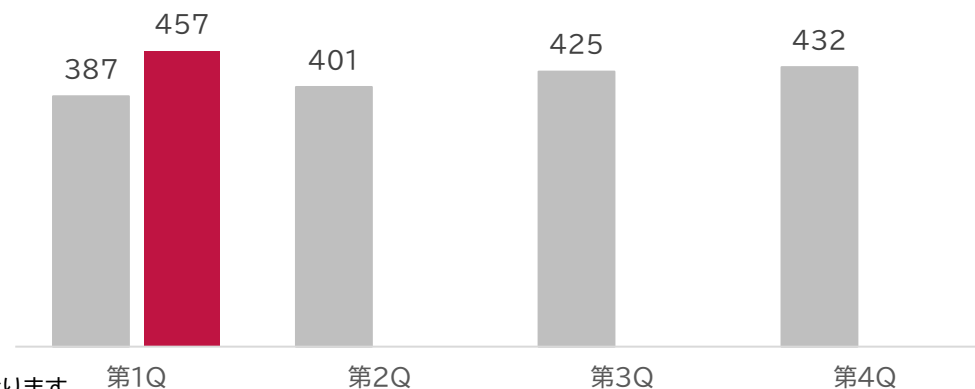
業態・セグメント別 売上総利益 (億円)



セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



売上総利益 四半期推移 (億円)



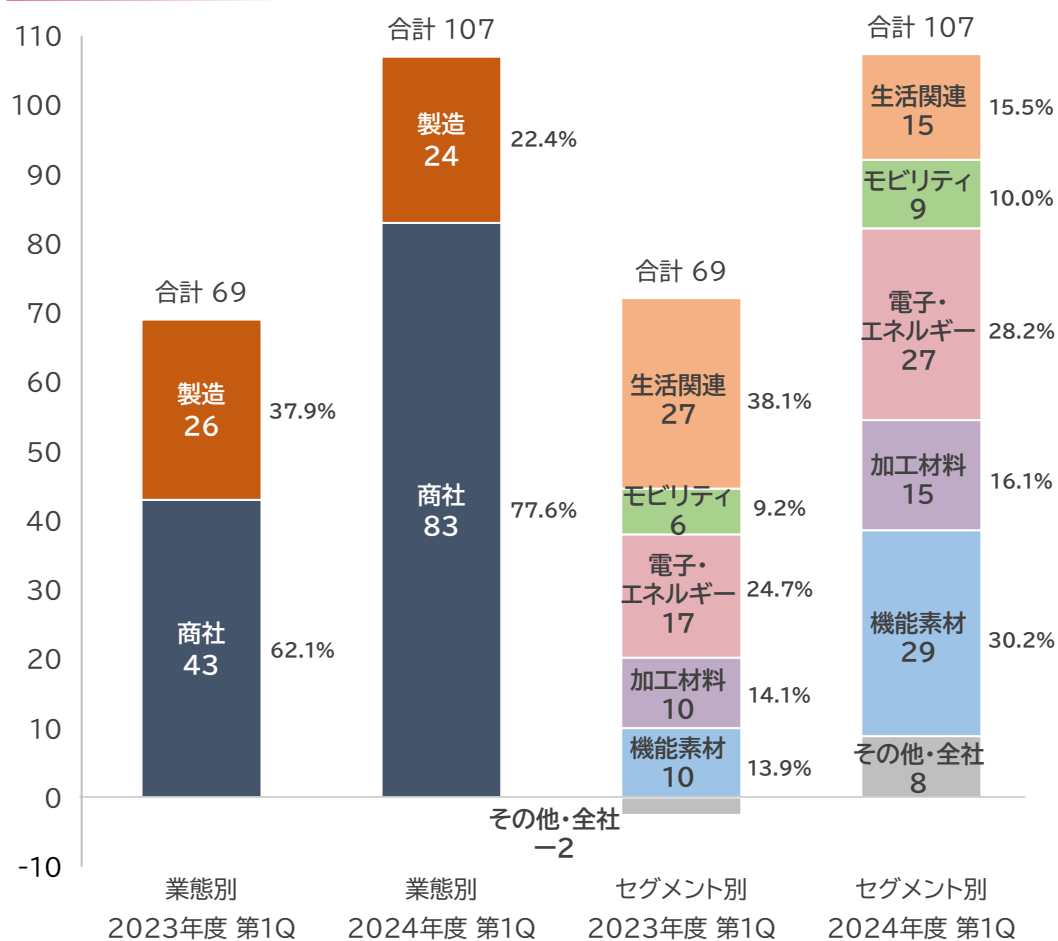
※ 商社の数値はその他・全社、連結調整を含む ※2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております
 ※ セグメント別構成比の計算には、その他・全社、連結調整を含まず

■ 2023年度 ■ 2024年度

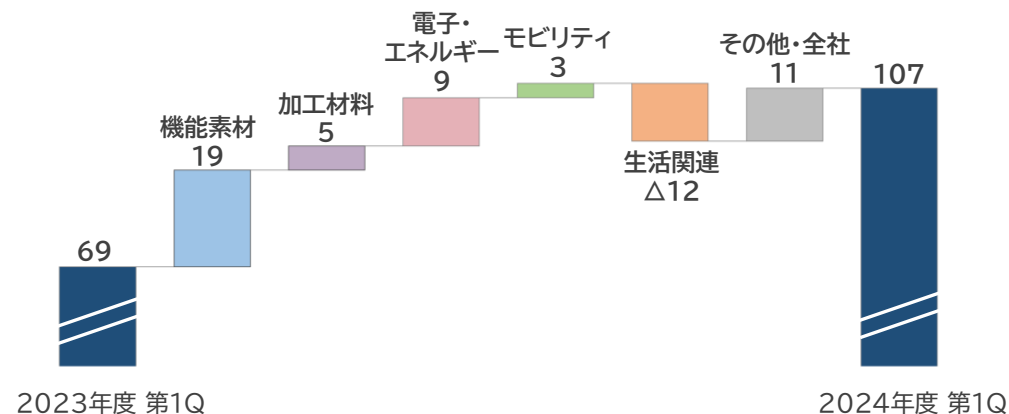
業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 製造業の営業利益はナガセテムテックスの変性エポキシ樹脂関連の販売好調やカラーフォーマー事業の損失削減等があったものの、Prinovaグループの減益による影響等により、全体として減益
- ▶ その他・全社は主に数理計算上の差異の償却益の影響で増益

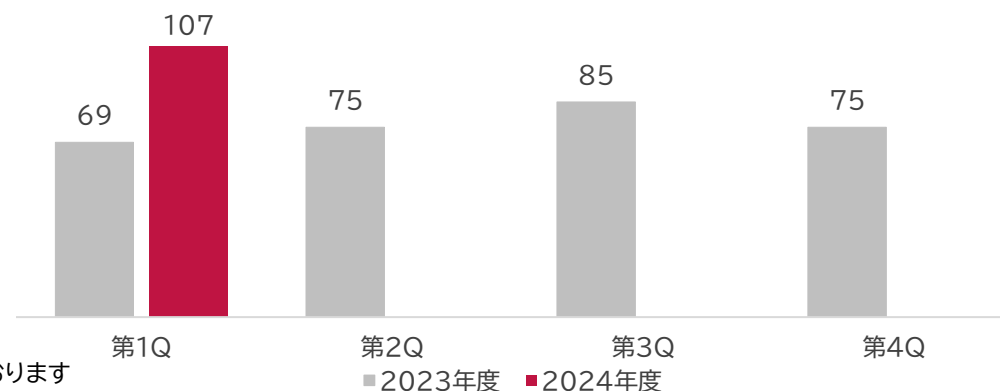
業態・セグメント別 営業利益 (億円)



セグメント別 営業利益 増減 (億円)



営業利益 四半期推移 (億円)



※ 商社の数値はその他・全社、連結調整を含む ※2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております
 ※ セグメント別構成比の計算には、その他・全社、連結調整を含まず

売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移

▶ 2023年度下期からの好調を継続

四半期実績						第1四半期 累計実績	(億円)
		1Q	2Q	3Q	4Q		当期見通し 前期実績
売上高	当期	2,392				2,392	9,400
	前期	2,240	2,261	2,275	2,224	2,240	9,001
	増減率	6.8%				6.8%	4.4%
売上総利益	当期	457				457	1,800
	前期	387	401	425	432	387	1,647
	増減率	18.3%				18.3%	9.3%
<利益率>	当期	19.1%				19.1%	19.1%
	前期	17.3%	17.8%	18.7%	19.4%	17.3%	18.3%
製造	当期	188				188	
	前期	165	160	183	185	165	695
商社	当期	269				269	
	前期	221	241	242	246	221	952
営業利益	当期	107				107	365
	前期	69	75	85	75	69	306
	増減率	54.3%				54.3%	19.2%
<利益率>	当期	4.5%				4.5%	3.9%
	前期	3.1%	3.3%	3.8%	3.4%	3.1%	3.4%
製造	当期	24				24	
	前期	26	17	25	21	26	91
商社	当期	83				83	
	前期	43	58	59	54	43	214

※商社として区分した各利益は連結調整による影響を含みますが、2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております

セグメント概況

- ▶ 塗料原料の販売は主に自動車業界向けが好調に推移したことにより増加
- ▶ 半導体関連等の電子業界向けの原料販売が増加
- ▶ 情報印刷関連材料の製造業であるカラーフォーマー事業は米国での生産を停止し、製造拠点を日本に集約したことにより損失削減
- ▶ 営業利益は顧客の在庫調整による全般的な販売不調に加え、カラーフォーマー事業の損失があった前年同期と比べて増益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	(億円) 当期見通し 前期実績
売上高	当期	405				405	1,550
	前期	364	357	375	370	364	1,468
	増減率	11.4%				11.4%	5.6%
売上総利益	当期	88				88	306
	前期	64	68	73	75	64	281
	増減率	37.8%				37.8%	8.8%
<利益率>	当期	21.8%				21.8%	19.7%
	前期	17.6%	19.1%	19.5%	20.4%	17.6%	19.2%
製造	当期	6				6	
	前期	1	1	2	3	1	8
商社	当期	82				82	
	前期	62	66	71	71	62	272
営業利益	当期	29				29	68
	前期	10	14	19	17	10	61
	増減率	197.2%				197.2%	10.4%
<利益率>	当期	7.3%				7.3%	4.4%
	前期	2.7%	4.1%	5.1%	4.8%	2.7%	4.2%
製造	当期	2				2	
	前期	-3	-2	-2	-1	-3	-9
商社	当期	27				27	
	前期	13	17	21	19	13	71

【注力施策】

機能化学品事業部

- ▶ グローバルな調達力を活かした石化産業や市場の変化を捉えたビジネス機会の獲得
- ▶ サステナブルな素材やソリューションの提案
(生分解性バイオSAP、化学品共同物流マッチング等)

スペシャリティケミカル事業部

- ▶ 市場成長が見込める半導体業界向けケミカルビジネスの拡大
- ▶ フロー合成、MOF※等、ユニークな技術を活用した事業創出

※ Metal Organic Frameworks
(金属有機構造体)



トピックス：改善領域の取組み

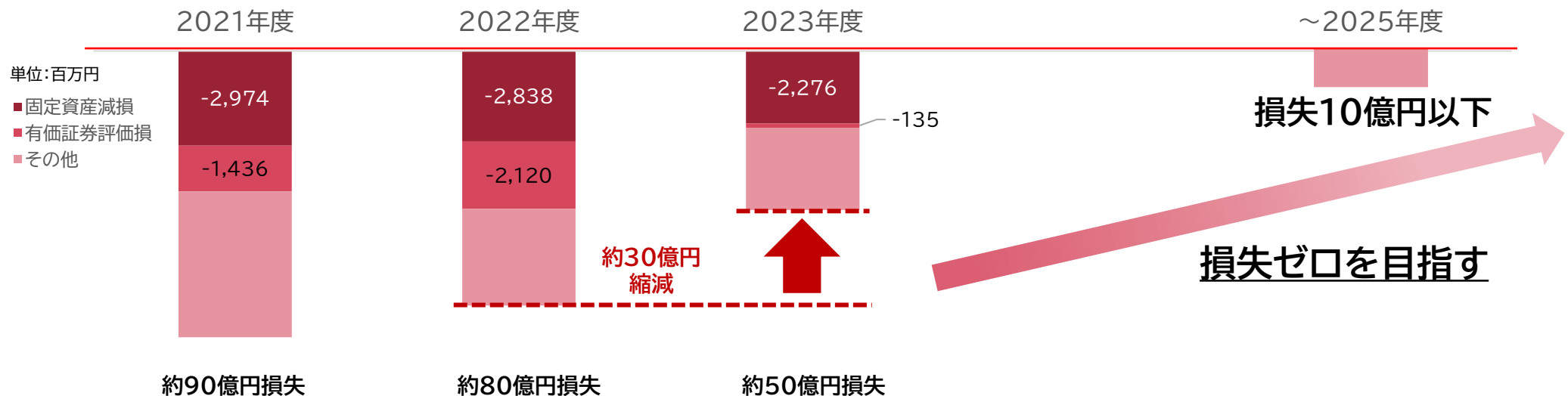
- ▶ 昨年度、カラーフォーマー製造子会社SOFIXにおける生産を停止
- ▶ 米国におけるカラーフォーマー事業からの撤退を決定

SOFIX LLCについて

- ▶ 米国、テネシー州のカラーフォーマー製造販売拠点であり、2023年度通期の営業赤字は約11億円
- ▶ 2024年度は大幅に営業損失を削減し、機能素材セグメントの売上総利益、営業利益の改善に寄与

グループ全体の取組み

【事業子会社の営業損失、持分法損失、減損損失、不採算取引の金額規模】



セグメント概況

- ▶ 樹脂の販売はOA等の電機・電子業界向けの需要回復を受けて増加
- ▶ 製造業は樹脂成型品の販売が増加
- ▶ 営業利益は、樹脂販売の市況底入れによる収益性の回復傾向が継続し、売上総利益が増加したことから、増益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	(億円) 当期見通し 前期実績
売上高	当期	535				535	2,072
	前期	485	536	477	485	485	1,985
	増減率	10.2%				10.2%	4.4%
売上総利益	当期	65				65	248
	前期	54	61	61	57	54	236
	増減率	20.1%				20.1%	5.0%
<利益率>	当期	12.3%				12.3%	12.0%
	前期	11.3%	11.5%	13.0%	11.9%	11.3%	11.9%
製造	当期	12				12	49
	前期	11	12	14	11	11	
商社	当期	53				53	186
	前期	43	49	47	46	43	
営業利益	当期	15				15	55
	前期	10	15	16	11	10	53
	増減率	56.3%				56.3%	3.5%
<利益率>	当期	3.0%				3.0%	2.7%
	前期	2.1%	2.9%	3.4%	2.3%	2.1%	2.7%
製造	当期	2				2	8
	前期	1	2	3	0	1	
商社	当期	13				13	44
	前期	8	13	12	10	8	

【注力施策】

ポリマーグローバルアカウント事業部

- ▶ グローバルブランドオーナーの生産拠点の変遷に伴い、メキシコ・インド等の注力エリアにリソースシフト
- ▶ 環境素材(自社品・他社品)の取扱い拡大
- ▶ グローバルでの事業運営の効率化、組織体制の最適化



粉体を超高濃度ペレット化する自社技術



ASEANにおける物流拠点(比)

セグメント概況

- ▶ 半導体業界向けの材料販売は市況の緩やかな回復を受け増加
- ▶ 電子デバイス向けの材料販売は需要の増加を受け増加
- ▶ 変性エポキシ樹脂関連はハイエンドサーバー用の半導体向け、モバイル機器向けの販売が増加
- ▶ 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	(億円) 当期見通し 前期実績
売上高	当期	400				400	1,493
	前期	355	356	375	360	355	1,447
	増減率	12.8%				12.8%	3.1%
売上総利益	当期	95				95	377
	前期	77	86	85	92	77	342
	増減率	23.7%				23.7%	10.1%
<利益率>	当期	23.8%				23.8%	25.3%
	前期	21.7%	24.2%	22.9%	25.8%	21.7%	23.6%
製造	当期	33				33	
	前期	27	31	33	39	27	131
商社	当期	62				62	
	前期	50	54	52	53	50	210
営業利益	当期	27				27	86
	前期	17	24	21	25	17	88
	増減率	55.5%				55.5%	△ 2.8%
<利益率>	当期	6.9%				6.9%	5.8%
	前期	5.0%	6.9%	5.6%	6.9%	5.0%	6.1%
製造	当期	7				7	
	前期	4	8	8	11	4	34
商社	当期	19				19	
	前期	12	15	12	13	12	54

【注力施策】

エレクトロニクス事業部

- ▶ 半導体市場における商材の拡充
 - ・国内生産の拡大を踏まえた事業創出
 - ・欧米やインド等での事業拡大
- ▶ 最先端電子デバイス向けビジネス開発

先進機能材料事業部

- ▶ ナガセケムテックスの製品を最先端半導体向けに販売拡大
- ▶ 次世代半導体の業界標準となるような新しい技術の提案実施
- ▶ 環境×半導体×技術の提案を更に拡充



PacTech Asiaの半導体ウェハバンピング新ライン

トピックス：半導体関連の動き

- ▶ ハイエンドサーバー向け最先端半導体事業を拡大
- ▶ 次世代のデファクトスタンダードを目指して新コンセプト材料(a-SMC:Advanced Sheet Molding Compound)の顧客への提案を推進するとともに、既存のLMC(Liquid Molding Compound)についても旺盛な需要の高まりを見込み、ナガセケムテックスの生産設備の増強を決定
- ▶ 国内の半導体工場向けの現像液・回収再生事業の始動に向けた供給体制を整備

ナガセケムテックスのLMC※製造ライン増設

- ▶ 播磨工場にラインを増設
 - ・生成AIをはじめとしたハイエンドサーバー向け事業における、足元の需要の高まりを見込み、生産体制の拡張を決定
 - ・既存工場のライン増設によって生産能力を倍増、下期から本格稼働予定
 - ・今後も市場の要求に応じて、機動的に設備増強予定



LMC



a-SMC



ナガセケムテックスのプロセス・イノベーション・センター



SN Techの現像液・回収再生事業

- ▶ 半導体製造における環境対応要求へのソリューション
 - ・TMAH(Tetramethyl Ammonium Hydroxide)、水の再利用に加え、産業廃棄物の処理費用の大幅削減を実現
- ▶ MOBIUS SYSTEM ® CHEMICAL RECYCLING
 - ・製造工程で回収したTMAHのリサイクル利用を可能にする革新的な技術
 - ・SN TechのJVパートナーであるSACHEM社(米国の化学企業、1950年設立、非上場)が専門的な化学知識と技術で開発
- ▶ 7月に顧客工場へ大型装置の搬入を完了
 - ・半導体工場からTMAHを回収するための大型装置の搬入が完了、2025年以降に始動を見込む



セグメント概況

- ▶ 樹脂の販売は、中国における日系販売先の生産台数減少による影響があったものの、世界的な自動車生産台数の増加により、増加
- ▶ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品販売が増加
- ▶ 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	(億円)
							当期見通し 前期実績
売上高	当期	321				321	1,387
	前期	311	337	353	319	311	1,321
	増減率	3.1%				3.1%	5.0%
売上総利益	当期	40				40	160
	前期	34	39	41	37	34	152
	増減率	17.8%				17.8%	5.0%
<利益率>	当期	12.5%				12.5%	11.5%
	前期	11.0%	11.8%	11.7%	11.6%	11.0%	11.5%
製造	当期	—				—	—
	前期	—	—	—	—	—	—
商社	当期	40				40	—
	前期	34	39	41	37	34	152
営業利益	当期	9				9	32
	前期	6	10	11	7	6	36
	増減率	49.7%				49.7%	△ 11.5%
<利益率>	当期	3.1%				3.1%	2.3%
	前期	2.1%	3.1%	3.3%	2.3%	2.1%	2.7%
製造	当期	—				—	—
	前期	—	—	—	—	—	—
商社	当期	9				9	—
	前期	6	10	11	7	6	36

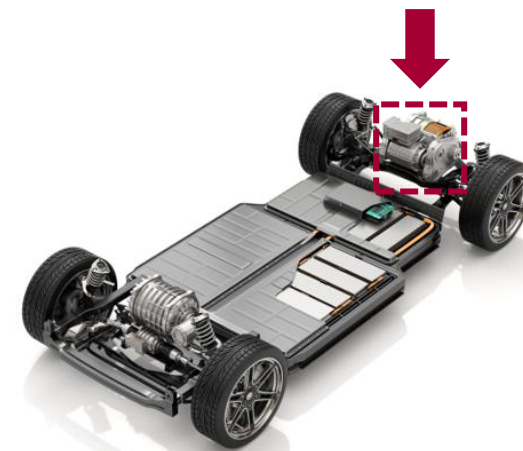
【注力施策】

モビリティソリューションズ事業部

- ▶ 電動化関連素材・部品の取扱いを一層拡充
- ▶ 北米・インドなどの成長市場へのリソース投下促進



車載インバーター用金属インサート成型部品



セグメント概況

- ▶ Prinovaグループは食品素材市況が下落していた前年同期と比べて収益性が回復し、販売も増加
- ▶ ナガセヴィータは香粧品素材の販売が国内向けは増加したが、海外向けは顧客の在庫調整の影響等もあり減少
- ▶ 中間体・医薬品原料の販売が増加
- ▶ 営業利益は売上総利益が増加したものの、主にPrinovaグループの人件費等の一般管理費の増加等もあり、減益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	(億円) 当期見通し 前期実績
売上高	当期	728				728	2,897
	前期	723	673	693	687	723	2,777
	増減率	0.7%				0.7%	4.3%
売上総利益	当期	168				168	710
	前期	156	145	163	168	156	634
	増減率	8.0%				8.0%	11.9%
<利益率>	当期	23.2%				23.2%	24.5%
	前期	21.6%	21.6%	23.6%	24.5%	21.6%	22.8%
製造	当期	136				136	
	前期	125	114	133	131	125	505
商社	当期	32				32	
	前期	30	30	30	37	30	129
営業利益	当期	15				15	94
	前期	27	13	19	20	27	80
	増減率	△ 44.5%				△ 44.5%	17.4%
<利益率>	当期	2.1%				2.1%	3.2%
	前期	3.8%	1.9%	2.8%	3.0%	3.8%	2.9%
製造	当期	11				11	
	前期	23	9	15	12	23	60
商社	当期	4				4	
	前期	4	3	3	8	4	19

※商社として区分した各利益は連結調整による影響を含みますが、2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております

【注力施策】

ライフ＆ヘルスケア製品事業部

- ▶ 自社製品の拡販に国内外で注力
 - ▶ 海外グループ基盤・拠点間の連携強化によるクロスセルの拡充
 - ▶ バイオ素材の拡充
(NVI※1、NBIC※2のバイオ由来素材の創出
例：発酵技術で量産化を目指すエルゴチオネイン)
 - ▶ Prinovaグループの製造の拡大
- ※1 ナガセヴィータ
※2 ナガセバイオイノベーションセンター



エルゴチオネインに期待される効果

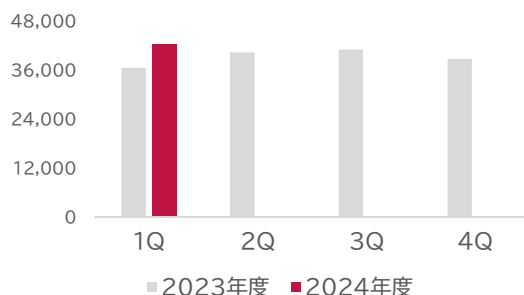
トピックス: Prinovaグループの現状

- ▶ 商社業は販売数量増加、利益率改善の傾向継続
- ▶ 製造業は生産体制の懸念は解消し効率性向上も進捗しているが、2024年度後半以降の利益回復を見込む

商社業

- ▶ 販売数量はシェア拡大が続いており増加傾向
- ▶ 中国食品素材メーカーの供給過多による急激な市況下落の影響を受けた2023年度と比較し、売上総利益率は改善傾向
- ▶ 中国食品素材メーカーの生産調整の動きも見られることからより一層、市況の改善が進む見込み
- ▶ スエズ運河閉鎖等による物流混乱、物流に要する日数増加、コンテナ不足等の状況はリスクでもあるが、Prinovaグループの機能による安定調達に対する期待が高まっている状況

販売数量の推移(商社業)



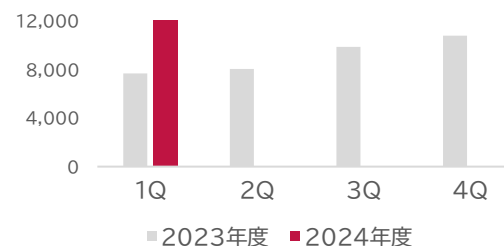
Ingredient distribution



製造業

- ▶ ユタ工場
 - ・遅れていた製造工程の自動化は、当初想定レベルまで完了
 - ・一方、スポーツニュートリション業界全体は伸びているが顧客毎の状況には濃淡あり
 - ・市場において高いシェアが取れる製品の受託パイプラインは獲得しているものの、2024年度後半から2025年度にかけて開始するものが多数
- ▶ テネシー工場
 - ・市場ニーズが高まっている個包装の製品であるスティックパック製造の自動化を推進、労務費が今後低減する見込み
 - ・需要拡大による販売増加と自動化を通じた原価低減を通じて2024年下期以降、利益貢献していく見込み

販売数量(製造業)



主要製造子会社概況

- ▶ ナガセケムテックス:主にハイエンドサーバー用途向けの変性エポキシ樹脂関連の販売好調により、営業利益は増益
- ▶ ナガセヴィータ:国内食品、香粧品素材の販売は好調も、海外向けの香粧品素材の販売が在庫調整の影響等で減少したことにより、営業利益は減益
- ▶ Prinovaグループ:食品素材販売における販売数量増加および利益率向上により売上総利益は増益となったが、一般管理費の増加及び足元の製造業の不調により、営業利益は減益

(億円)

		2023年度 第1四半期	2024年度 第1四半期	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
ナガセケムテックス	売上高	57	66	8	115%	261	25%
	売上総利益	17	20	3	120%	80	26%
	<利益率>	30.2%	31.6%	1.4ppt	-	30.7%	-
	営業利益	5	7	2	144%	26	28%
	<利益率>	9.2%	11.5%	2.3ppt	-	10.3%	-
ナガセヴィータ	売上高	89	86	△3	97%	369	23%
	売上総利益	34	33	△1	96%	140	24%
	<利益率>	38.4%	38.2%	△0.2ppt	-	37.9%	-
	営業利益	16	13	△3	80%	57	23%
	<利益率>	18.4%	15.3%	△3.1ppt	-	15.4%	-
	のれん等償却費	7	7	-	100%	29	26%
	償却費負担後営業利益	8	5	△3	63%	27	20%
※Prinovaグループ	売上高	516	504	△11	98%	2,091	24%
	売上総利益	87	99	12	114%	421	24%
	<利益率>	16.9%	19.7%	2.8ppt	-	20.2%	-
	営業利益	19	13	△6	68%	81	17%
	<利益率>	3.8%	2.7%	△1.1ppt	-	3.9%	-
	のれん等償却費	6	6	0	112%	27	25%
	償却費負担後営業利益	13	6	△6	49%	54	12%

※2023年度の業績について、のれん等の償却費以外の連結修正による損益影響を含めておりませんが、適切な業績開示の観点から含めた計数に変更しております

連結貸借対照表

▶ 運転資本は業績好調に加え、円安影響もあり増加

(US\$換算レート:2024年3月末 151.4円 2024年6月末 161.1円)

(RMB換算レート:2024年3月末 20.8円 2024年6月末 22.0円)

(億円)

	2024年3月末	2024年6月末	増減額	主な増減
流動資産	5,424	5,718	293	
（現金及び預金）	594	583	△10	
（売掛債権）	3,211	3,333	122	
（棚卸資産）	1,479	1,595	116	
固定資産	2,498	2,583	85	
（投資有価証券）	762	790	28	
資産の部合計	7,923	8,302	379	
流動負債	3,026	3,184	157	短期借入金・CP+98、賞与引当金△34
（買掛債務）	1,563	1,660	96	
固定負債	883	969	86	長期借入金+74
負債の部合計	3,910	4,154	244	
株主資本	3,128	3,123	△5	
その他の包括利益累計額	812	946	133	為替換算調整勘定+124
非支配株主持分	72	78	6	
純資産の部合計	4,013	4,148	134	
運転資本	3,127	3,269	141	
自己資本比率	49.7%	49.0%	△0.7ppt	
有利子負債	1,669	1,827	158	
NET D/Eレシオ	0.27	0.31	0.03	

連結キャッシュ・フロー計算書

▶ 業績好調により四半期純利益利益は増加したが、運転資本も増加した影響等により営業CFは30億円の支出

	(億円)	
	2023年度 第1四半期	2024年度 第1四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	158	△30
（税引等調整前四半期純利益）	64	107
（有形・無形資産償却費）	39	44
（運転資本の増減）	153	△45
（その他）	△97	△137
投資活動によるキャッシュ・フロー	△40	△82
（固定資産投資）	△40	△41
（その他）	0	△40
フリーキャッシュ・フロー	118	△112
財務活動によるキャッシュ・フロー	△136	33
（自己株式取得による支出）	△32	△33
（配当金の支払い額）	△46	△45
（借入金・社債の増減）	△55	115
（その他）	△1	△2
換算差額	33	40
現金及び現金同等物の増減額	16	△38

2024年度 通期業績見通し(変更なし)

- ▶ 半導体関連、フード関連事業における製造業の収益拡大を見込む
- ▶ 商社業における樹脂販売は復調し、自動車関連事業も堅調を見込む
- ▶ 販売費及び一般管理費は数理差異の償却による退職給付費用の減少はあるが、事業の拡大もあり、全体として増加見込み
(退職給付の数理差異:2023年度 約9億円の費用、2024年度 約35億円の収益)

	(億円)			
	2023年度 実績	2024年度 見通し	増減額	前期比
売上高	9,001	9,400	398	104%
売上総利益	1,647	1,800	152	109%
<利益率>	18.3%	19.1%	0.8ppt	—
販売費及び 一般管理費	1,341	1,435	93	107%
営業利益	306	365	58	119%
<利益率>	3.4%	3.9%	0.5ppt	—
経常利益	305	352	46	115%
親会社株主に帰属 する当期純利益	224	280	55	125%
US\$レート (期中平均)	@ 144.6	@ 148.0	@ 3.4	円安
RMBレート (期中平均)	@ 20.1	@ 20.0	@ 0.1	円高

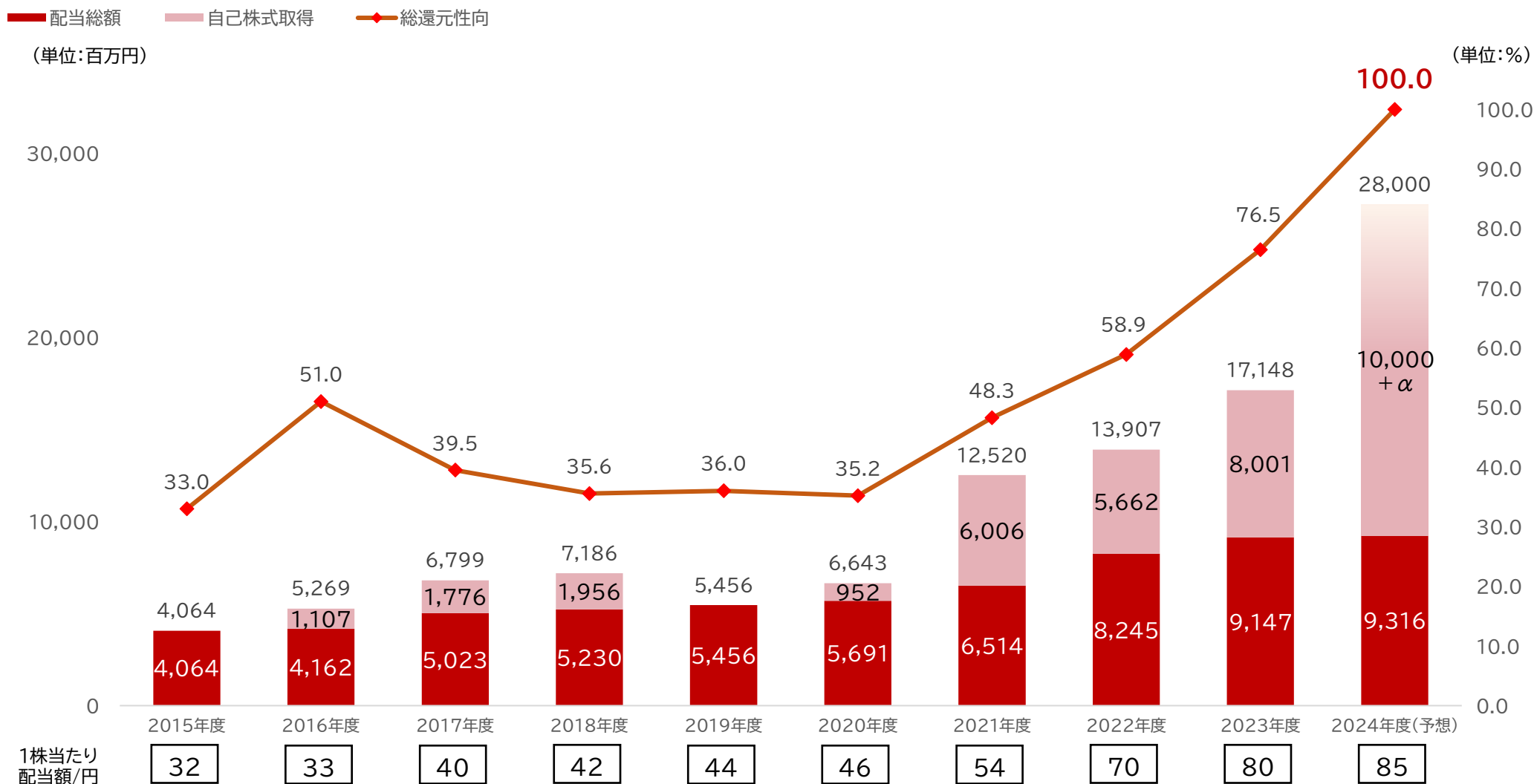
2024年度 セグメント別業績見通し(変更なし)

- ▶ 機能素材は主に自動車関連向けの販売増加と、カラーフォーマー事業における損失の減少により、増収増益
- ▶ 加工材料は主にOA等の電機・電子業界向けの樹脂販売の増加により、増収増益
- ▶ 電子・エネルギーは主にナガセケムテックスのハイエンドサーバー用の半導体向けの変性エポキシ樹脂関連の販売増加により増収、売上総利益も増益を見込むが、全社共通経費の配賦額の増加等により、営業利益は減益
- ▶ モビリティは世界的な生産台数の増加を受けた樹脂、機能素材・機能部品の販売増加により増収、売上総利益も増益を見込むが、全社共通経費の配賦額の増加等により、営業利益は減益
- ▶ 生活関連は主にPrinovaグループの食品素材の市況底打ちによる収益性回復とナガセヴィータの食品、香粧品素材の販売増加により、増収増益

		(億円)			
		2023年度 実績	2024年度 見通し	増減額	前期比
機能素材	売上高	1,468	1,550	81	106%
	売上総利益	281	306	24	109%
	<利益率>	19.2%	19.7%	0.6ppt	—
	営業利益	61	68	6	110%
	<利益率>	4.2%	4.4%	0.2ppt	—
加工材料	売上高	1,985	2,072	86	104%
	売上総利益	236	248	11	105%
	<利益率>	11.9%	12.0%	0.1ppt	—
	営業利益	53	55	1	104%
	<利益率>	2.7%	2.7%	△0.0ppt	—
電子・エネルギー	売上高	1,447	1,493	45	103%
	売上総利益	342	377	34	110%
	<利益率>	23.6%	25.3%	1.6ppt	—
	営業利益	88	86	△2	97%
	<利益率>	6.1%	5.8%	△0.4ppt	—
モビリティ	売上高	1,321	1,387	65	105%
	売上総利益	152	160	7	105%
	<利益率>	11.5%	11.5%	0.0ppt	—
	営業利益	36	32	△4	89%
	<利益率>	2.7%	2.3%	△0.4ppt	—
生活関連	売上高	2,777	2,897	119	104%
	売上総利益	634	710	75	112%
	<利益率>	22.8%	24.5%	1.7ppt	—
	営業利益	80	94	13	117%
	<利益率>	2.9%	3.2%	0.4ppt	—
その他・全社	売上高	1	1	△0	68%
	売上総利益	0	—1	△1	—
	営業利益	—13	30	43	—
連結合計	売上高	9,001	9,400	398	104%
	売上総利益	1,647	1,800	152	109%
	<利益率>	18.3%	19.1%	0.8ppt	—
	営業利益	306	365	58	119%
	<利益率>	3.4%	3.9%	0.5ppt	—

株主還元状況

- ▶ 2024年度の1株当たり配当金は中間40円、期末45円の年間85円を予定(15期連続増配見通し)
- ▶ 2024年5月に**ACE 2.0**期間における還元方針を変更し、2024年度、2025年度の**総還元性向を100%**とした(継続増配の方針は変更無し)
- ▶ 上記方針に基づき2024年5月に決議した100億円の自己株式取得は、予定通り進捗し6月末時点での取得累計額は33億円
(取得期間:2024年5月~10月予定)※11月以降の追加還元は別途決議



※ 2024年度の期末配当金は、2025年6月開催予定の第110回定時株主総会に附議予定です。

お知らせ:名古屋支店移転

- ▶ 名古屋支店を移転し、2024年7月16日より営業開始
- ▶ 新オフィスでは東京本社に続き、ABW(アクティビティ・ベースド・ワークプレイス)を導入し、多様で創造的な働き方を実現できる環境を整備

新名古屋オフィスについて

旧名古屋支店



旧名古屋支店住所
〒460-8540 愛知県名古屋市中区丸の内
三丁目14番18号

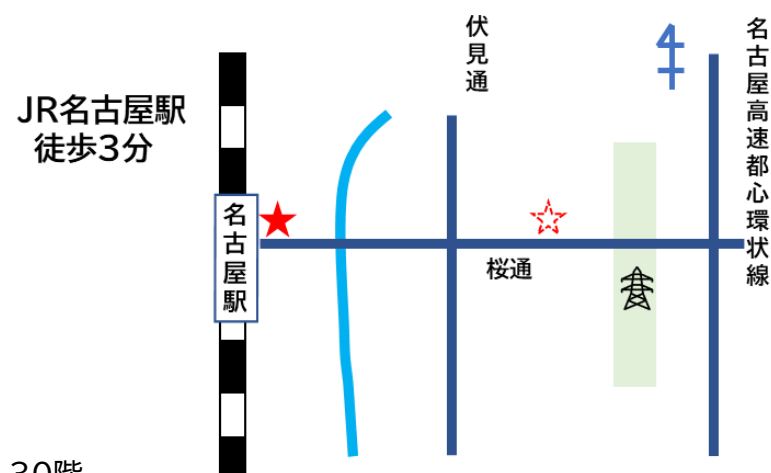
<テナントビル>
大名古屋ビルヂング



移転先住所
〒450-6430 愛知県名古屋市中村区
名駅三丁目28番12号 大名古屋ビルヂング 30階



新オフィス内装



ご参加・ご来場をお待ちしております！

2024年10月12日(土)・13日(日)

第3回NAGASEカップ @国立競技場 入場無料

Further, We Go.

WPA APPROVED COMPETITION
NAGASE CUP

第3回 WPA公認

NAGASEカップ
陸上競技大会

10.12 SAT
10.13 SUN

国立競技場

WRk対象競技会として実施予定

主催 JPA 東京陸上競技協会 特別協賛 NAGASE



■お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

■当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

当プレゼンテーション資料には、2024年8月8日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移ーその他・全社配賦前一

- ▶ 2024年度よりその他・全社のうち、長瀬産業単体の一部を除く全社共通経費を各事業部に配賦する運用を開始
- ▶ 全社共通経費を配賦し、各事業部の収益性をより実態に近い形で把握できる体制へと変更
- ▶ 本ページでは参考情報としてその他・全社配賦前の四半期推移を記載

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	当期見通し 前期実績
連結合計							
売上高	当期	2,392				2,392	9,400
	前期	2,240	2,261	2,275	2,224	2,240	9,001
	増減率	6.8%				6.8%	4.4%
売上総利益	当期	457				457	1,800
	前期	387	401	425	432	387	1,647
	増減率	18.3%				18.3%	9.3%
<利益率>	当期	19.1%				19.1%	19.1%
	前期	17.3%	17.8%	18.7%	19.4%	17.3%	18.3%
営業利益	当期	107				107	365
	前期	69	75	85	75	69	306
	増減率	54.3%				54.3%	19.2%
<利益率>	当期	4.5%				4.5%	3.9%
	前期	3.1%	3.3%	3.8%	3.4%	3.1%	3.4%

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	当期見通し 前期実績
機能素材(機能化学品事業部&スペシャリティケミカル事業部)							
売上高	当期	405				405	1,550
	前期	364	357	375	370	364	1,468
	増減率	11.4%				11.4%	5.6%
売上総利益	当期	88				88	306
	前期	64	68	73	75	64	281
	増減率	37.8%				37.8%	8.8%
<利益率>	当期	21.8%				21.8%	19.7%
	前期	17.6%	19.1%	19.5%	20.4%	17.6%	19.2%
営業利益	当期	37				37	105
	前期	15	21	25	24	15	86
	増減率	140.7%				140.7%	21.7%
<利益率>	当期	9.1%				9.1%	6.8%
	前期	4.2%	6.0%	6.7%	6.6%	4.2%	5.9%

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	当期見通し 前期実績
加工材料(ポリマーグローバルアカウント事業部)							
売上高	当期	535				535	2,072
	前期	485	536	477	485	485	1,985
	増減率	10.2%				10.2%	4.4%
売上総利益	当期	65				65	248
	前期	54	61	61	57	54	236
	増減率	20.1%				20.1%	5.0%
<利益率>	当期	12.3%				12.3%	12.0%
	前期	11.3%	11.5%	13.0%	11.9%	11.3%	11.9%
営業利益	当期	20				20	77
	前期	13	19	20	15	13	68
	増減率	50.2%				50.2%	13.2%
<利益率>	当期	3.8%				3.8%	3.7%
	前期	2.8%	3.6%	4.2%	3.1%	2.8%	3.4%

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	当期見通し 前期実績
電子・エネルギー(エレクトロニクス事業部&先進機能材料事業部)							
売上高	当期	400				400	1,493
	前期	355	356	375	360	355	1,447
	増減率	12.8%				12.8%	3.1%
売上総利益	当期	95				95	377
	前期	77	86	85	92	77	342
	増減率	23.7%				23.7%	10.1%
<利益率>	当期	23.8%				23.8%	25.3%
	前期	21.7%	24.2%	22.9%	25.8%	21.7%	23.6%
営業利益	当期	34				34	124
	前期	23	31	27	31	23	113
	増減率	50.6%				50.6%	9.5%
<利益率>	当期	8.7%				8.7%	8.3%
	前期	6.5%	8.7%	7.3%	8.8%	6.5%	7.8%

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	当期見通し 前期実績
モビリティ(モビリティソリューションズ事業部)							
売上高	当期	321				321	1,387
	前期	311	337	353	319	311	1,321
	増減率	3.1%				3.1%	5.0%
売上総利益	当期	40				40	160
	前期	34	39	41	37	34	152
	増減率	17.8%				17.8%	5.0%
<利益率>	当期	12.5%				12.5%	11.5%
	前期	11.0%	11.8%	11.7%	11.6%	11.0%	11.5%
営業利益	当期	13				13	51
	前期	9	13	14	10	9	49
	増減率	44.6%				44.6%	3.4%
<利益率>	当期	4.3%				4.3%	3.7%
	前期	3.0%	4.1%	4.2%	3.4%	3.0%	3.7%

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	当期見通し 前期実績
生活関連(ライフ&ヘルスケア製品事業部)							
売上高	当期	728				728	2,897
	前期	723	673	693	687	723	2,777
	増減率	0.7%				0.7%	4.3%
売上総利益	当期	168				168	710
	前期	156	145	163	168	156	634
	増減率	8.0%				8.0%	11.9%
<利益率>	当期	23.2%				23.2%	24.5%
	前期	21.6%	21.6%	23.6%	24.5%	21.6%	22.8%
営業利益	当期	21				21	125
	前期	32	19	24	26	32	103
	増減率	△ 34.8%				△ 34.8%	21.1%
<利益率>	当期	2.9%				2.9%	4.3%
	前期	4.5%	2.9%	3.6%	3.9%	4.5%	3.7%

- ※ 各費用に以下のいずれかの基準を用いて7事業部に配賦
- ①各事業部に均等配賦
 - ②各事業部の事業規模(売上高、売上総利益)に応じて配賦

再掲:各セグメントの事業環境ー2023年度期末 決算説明会資料よりー



業界	2023年度の動向		2024年度の動向		セグメント
塗料	自動車用途は徐々に回復、建築関連用途は低迷		自動車用途は引き続き堅調だが、全体として概ね横ばい		機能素材
カラー フォーマー	需要は低調継続、市況は一層下落		供給過多の状況は継続し市況は低迷が続く		
半導体	市況の回復は遅れる中、ハイエンド向けが好調		緩やかに回復し、年後半は本格的に回復、ハイエンド向けは好調継続		
ディスプレイ	スマホを始め出荷が低迷し、年度通じて低調		前期比で需要は回復		電子・エネルギー
スマート フォン	通期を通して出荷が低迷		前期比で伸長見込み		
OA・ゲーム	世界的な需要の低迷を受け、樹脂市況も下落		全般的に需要及び樹脂市況は緩やかに回復		加工材料
自動車	中国の日系自動車関連は低調、国内は半導体不足からの回復を受け堅調		緩やかな自動車生産台数の回復が継続		モビリティ
医薬	業界全体は不調		需要は増加しているが、先発薬の特許切れ等もあり原料販売は減少		生活関連
香粧品	コロナ収束の影響により需要増加		全体として需要は回復傾向継続		
フード	米国市場の需要が減少し、市況も下落していたが需要は下期以降回復傾向		米国市場における需要の回復傾向は継続		

※一過性損失等を除く、ナガセグループの事業環境(必ずしも一般的な業界動向とは一致しない)